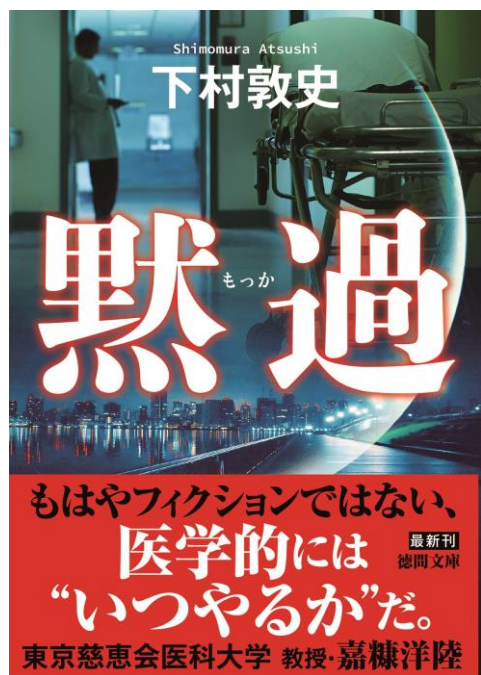


移植手術、安楽死、動物愛護……、
“生命”の現場を舞台にした下村敦史による瞠目の医療ミステリー

『黙過』 徳間文庫より9月4日(金)発売

株式会社徳間書店は、この度2018年に刊行された作家・下村敦史さんの医療ミステリー『黙過』を文庫化、9月4日(金)に徳間文庫から発売いたします。



5つの短編を収録

「優先順位」「詐病」「命の天秤」
「不正疑惑」「究極の選択」

解説：有栖川有栖

- タイトル：黙過
- 著者：下村敦史
- 発売日：2020年9月4日(金)
- 定価：本体720円＋税
- 判型：文庫判(徳間文庫)
- ページ数：416ページ
- 発売：株式会社徳間書店

移植手術を巡り葛藤する新米医師——「優先順位」。
安楽死を乞う父を前に懊悩する家族——「詐病」。
過激な動物愛護団体が突き付けたある命題——「命の天秤」。
ほか、生命の現場を舞台にした衝撃の医療ミステリー。

注目の江戸川乱歩賞作家が放つ渾身のどんでん返しに、
あなたの涙腺は耐えられるか。

最終章「究極の選択」は、最後にお読みいただくことを強くお勧めいたします。

【「驚愕の四声体ミステリ」作家・有栖川有栖】

下村敦史はあくまでもミステリーの枠内に留まり、濃厚な謎解きの味わいと(どんでん返し)を盛った上で、死を真正面からテーマにしてみせた。構築の美に感動さえ覚える。

【東京慈恵会医科大学 教授・嘉糠洋陸】

読み終わったとき、思わず胸に手を当てずにはいられなかった。

【担当編集から読者の皆様へ】

一篇一篇、まるでミステリーのフルコースを食したかのような満足感をお約束します。そして最後。これまでの料理はすべて前菜だったことに気付くはず。

これからの小説界を担う下村敦史さん『黙過』ぜひ、お召し上がりください。

下村敦史(しもむら・あつし) 1981年京都府生まれ

2014年に『闇に香る嘘』で第60回江戸川乱歩賞を受賞しデビュー。同作は数々のミステリランキングにおいて高い評価を受ける。同年に発表した短編「死は朝、羽ばたく」が第68回日本推理作家協会賞短編部門候補、『生還者』が第69回日本推理作家協会賞の長編及び連作短編集部門の候補、『黙過』が第21回大藪春彦賞候補となるなど、今注目を集める若手作家である。『難民調査官』『叛徒』『真実の檻』『失踪者』『告白の余白』『緑の窓口 樹木トラブル解決します』『サハラの薔薇』『悲願花』『刑事の慟哭』『絶声』『コープス・ハント』『法の雨』など著書多数。